

出生直後の新生児の行動と母親の反応

赤嶺容子、島袋香子、石原 昌、野村紀子、島田信宏(北里大学病院)

I はじめに

これまでの調査において、分娩直後の母親とその児の初回対面時に、自発的に接触を求める母親群と、接触を求めない母親群の社会的背景及び生育歴について調査を行った。その結果、計画的に妊娠した婦人、自分の育った栄養方法についての情報をもっていた婦人、同胞数の少ない婦人に、Touching行動をおこす母親が多いという結果が得られた。

今回は、より関連因子が強いと思われる項目の継続調査と、新たにBabyのstate、母親の気質因子との関連性について、調査を行ったのでここに報告する。

調査項目は、1 妊娠の計画性 2 妊娠中の乳房の手当 3 面会時の新生児のstate 4 同胞数 5 自己判定による性格分類 6 体格分類の6項目とした。(表1)

II 調査対象及び方法

昭和60年度、当院で分娩した婦人を対象とし、面接方法及び観察による調査を行った。有効調査人数は、初産婦46名、経産婦51名の計97名であり、これまでの検討方法と同じくtouchingの有無にわけ、比較検討を行った。

Babyのstateの判定基準は、ブラゼルトンの新生児行動評価基準を用い、観察者が同一の判定をできるように写真分類による事前訓練を実施した。(表2)

性格及び体格分類は、気質因子をみていく上での判定基準となりえるか、確認するため妊婦自身に素直に自分の性格を内向的と思うか、外向的と思うか、を質問する方法による分類と、クレッチマーの体格分類を基準に、身長、体重、骨格、顔の輪郭による分類を試みた。

III 結果

初回対面時において、touchingを行った婦人は82名(84.5%)、行なわなかった婦人は、15名(15.5%)であり、これまでの調査結果と同様であった。初経産別にみるtouchingの有無は、これまでの調査結果と同様差がみられなかった。(表3)

妊娠の計画性についてみると、計画的に妊娠した婦人は、初産婦22名(82%)経産婦29名(97%)が、touchingを行っており、行なわなかった人は、初産婦5名(18%)経産婦3名(3%)であった。

非計画的妊娠であった婦人においては、初産婦15名(83%)経産婦15名(71%)がtouchingを行っており、行っていない婦人は、初産婦3名(17%)経産婦6名(29%)と経産婦の非計画的妊娠であった婦人に、touchingをしなかった人が多くみられた。(図1)

妊娠中の乳房の手当についてみると、手当を行った婦人において、touchingした人は、初産婦22名(85%)経産婦22名(85%)touchingしなかった人は、初産婦4名(15%)経産婦4名(15%)であった。手当を行わなかった婦人においては、touchingした人初産婦16名(80%)経産婦22名(88%)、touchingしなかった人は初産婦4名(20%)経産婦3名(12%)であり、touchingの有無との関連性はみられなかった。(図2)

Touchingしなかった初産婦で、非計画的妊娠であった3名はすべて乳房の手当をしておらず、経産婦においても6名中3名(50%)が手当をしていなかった。touchingした人においても非計画妊娠の15名中11名が乳房の手当をしておらず、経産婦においては、15名中8名(53%)が手当をしていなかった。

新生児のstateとtouchingの有無についてみ

ると、初産婦においては、state 1で1名がtouchingを行っている。state 2においては8名(80%)がtouchingを行っており、行っていない人は2名(20%)であった。state 3においてはtouchingを行った人5名(83%)行なわなかった人1名(17%)state 4においては、4名すべてがtouchingを行っていた。state 5においては、10名(83%)がtouchingを行っており、行なわなかった人2名(17%)state 6においては、touchingを行った人10名(77%)行なわなかった人3名(23%)であった。経産婦においては、state 2でtouchingを行った人8名(80%)行なわなかった人2名(20%)であり、state 3においては、touchingを行った人6名(86%)行なわなかった人1名(14%)、state 4においては、3名すべてがtouchingを行い、state 5においては、行った人16名(94%)、行なわなかった人1名(6%)、state 6においては、touchingを行った人11名(79%)行なわなかった人3名であった。(図3)

初回対面時のBabyのstateは5~6が多くこれは、touchingの有無別にみても差はみられなかった。(図4)

同胞数についてみると、1人っ子においてtouchingした婦人は、初産婦10名(91%)経産婦6名(100%)であり、同胞数1人の人でtouchingした婦人は、初産婦17名(85%)、経産婦14名(82.4%)であった。同胞数2人の婦人において、初産婦9名(69.2%)経産婦15名(83.3%)、同胞数3人の婦人では、初産婦1名、経産婦4名(87.5%)であった。(図5)

Touchingした母親は、1人っ子及び同胞数1人すなわち、2人兄弟の母親に多いという結果であり、これは前回と同様であった。

性格分類とtouchingの有無をみると、初経産婦ともtouchingを行った人は、外向的と答えた人に多いという結果であった。(図6)

クレッチマーの体格分類とtouchingの有無についてみると、肥満型の人にtouchingした婦人が多い傾向がみられた。(図7)

IV 考察

妊娠を計画することが、母親の子供に対する愛着形成の重要な因子であるといわれている。私達はtouching行動が母親から児への愛着行動のあらわれであると考えているが、無計画的な妊娠であった人に、touching行動をおこす人が少なかったという結果は、これを支持していると考えられる。今回の調査においては、経産婦のみにその結果がみられた。

私達は、妊娠の計画性を、積極的に妊娠を受けとめた因子としてとりあげた。しかし、初産婦の場合は、特に無計画な妊娠であっても、妊娠を受容しているケースは多いと考えられるが、その判別を行っていないため、正確な傾向をつかむことはできなかった。

妊娠中の乳房の手当の有無とtouchingについての関連性はみられなかった。しかし非計画妊娠であった婦人の半数は、乳房の手当をしていないことから、妊娠をActiveにとらえられない婦人は、その後の経過の中で、必要とされる準備をしている人が少いと考えられる。

新生児のstateとtouching行動に関連性はみられなかった。この結果により、初回対面時における、touching行動が、母親自身の因子により影響を受けているのではないかと考えられる。

同胞数については、前回の調査結果と同様、同胞数が少ない母親にtouching行動をおこした人が多くみられた。これは、アタッチメントを受ける機会にめぐまれていたことの差によるものだと考えられる。

性格・体格分類においては、気質因子との関連をみる上での判定基準となりえるか、1つの試みとして実施したが、主観的判定基準に片よっており、客観的データが少ないため、判定方法に問題があり、今後、方法について検討を行っていく必要があると考えている。

V 結語

今回の調査においても、やはり、15%の母親

がtouching行動をおこしていないことがわかって今後さらに、それらの母親の因子分析を行っていくと共に、touchingする母親と、しない母親の授乳時における行動について、追跡調査を行っていきたいと考えている。

参考文献

1 Marshall H, Klaus, 竹内 徹、柏木哲

夫訳：母と子のきずな 医学書院 1979

2 小嶋謙四郎：乳児期の母子関係 医学書院 1981

3 T. Borry Brazelton 小林 登訳 親と子のきずな 医歯薬出版 1983

4 宮城音弥：性格 岩波書店 1984

5 詫摩武俊：「性格はいかにつくられるか」 岩波書店 1984

表1

(母子相互作用研究)

調査表 (3)

調査内容	月 日	
	初産婦 身長	経産婦 m 体重 Kg
		非24時間 Kg
1、面会時の母親の行動		
a) 出生後の面会時間	時間	分後
b) 母親が手を出して子供にふれようとしたか	(1) はい	(2) いいえ
c) 子供のどこにふれたか	(1) 手 (2) 足 (3) 頭 (4) 顔	(5) その他
d) 母親の表情、及び言葉		
2、新生児の反応		
a) state (1) 熟睡している状態		
b) state (2) 目を閉じた浅い眠り		
c) state (3) ねむそうな、または半いねむり状態		
d) state (4) 輝きのある目つきを伴った活発な状態		
e) state (5) 目をあけている状態		
f) state (6) 啼泣状態		
3、出産に対する態度	(a) 計画出産	(b) 無計画出産
4、妊娠中に乳房の手当てを行っていたか	(a) はい	(b) いいえ
5、同胞はいますか	(a) 1人 (b) 2人 (c) 3人 (d) 4人 (e) 5人	
6、性格の分類(ユングによる)	(a) 外向型 (b) 内向型 (c) どちらともいえない	
7、クレッチマアの体格気質類型	(a) 肥満型(そううつ性気質) (b) 細長型(分裂性気質)	
	(c) 闘士型(癡癡性気質)	
	(3、4、5、6、)については、妊婦へ質問して下さい。	
	(7)については、調査者が観察し記入して下さい。	

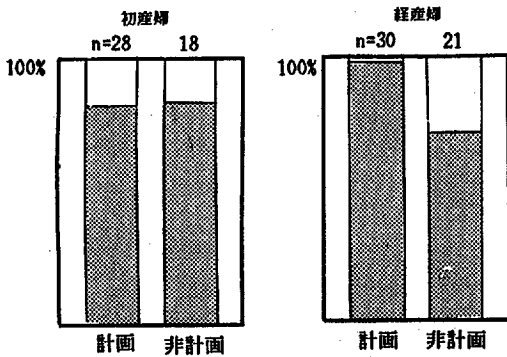
表2 プラゼルトンの新生児行動評価

1. 熟睡している状態
2. 目を閉じた浅い眠り
3. ねむそうな、または半い眠り状態
4. 輝きのある目つきを伴った活発な状態
5. 目をあけている状態
6. 泣いている状態

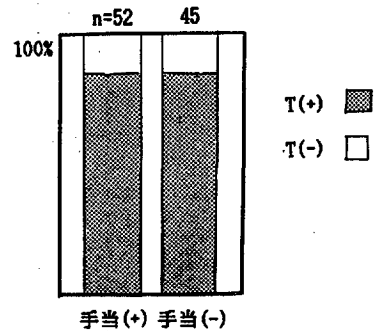
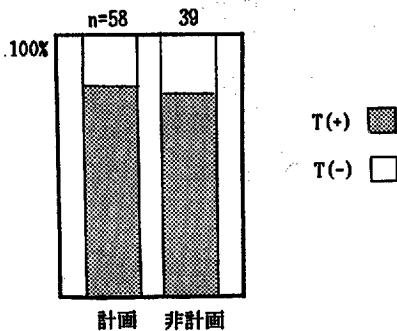
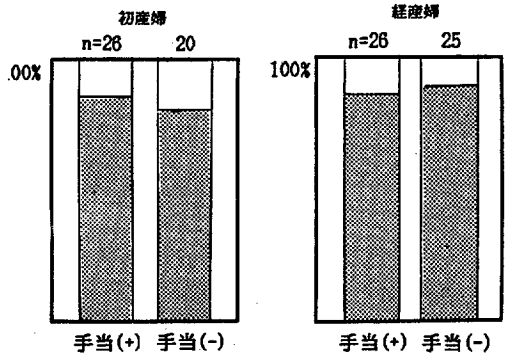
表3 初・経産別のTouchingの有無

	T(+)	T(-)	計
初産婦	38 (82.6%)	8 (17.4%)	46 (100%)
経産婦	44 (86.3%)	7 (13.7%)	51 (100%)
計	82 (84.5%)	15 (15.5%)	97 (100%)

計画妊娠か否かとTouching



妊娠中の乳房の手当の有無とTouching



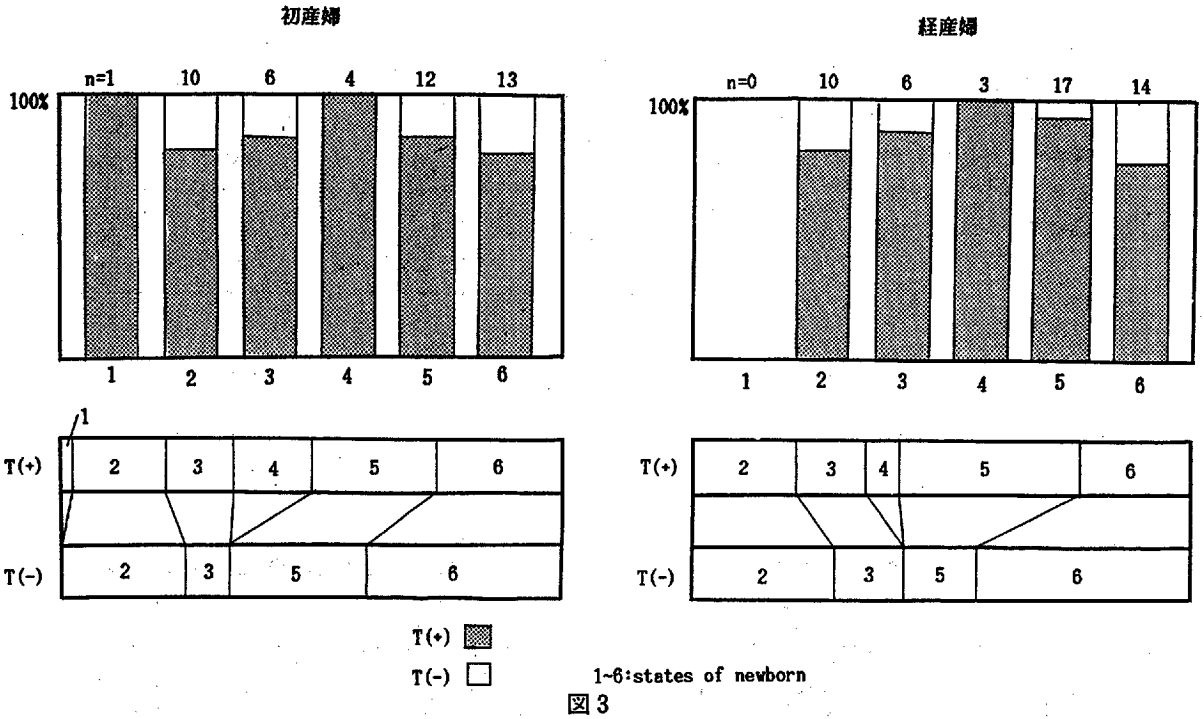
全体

全体

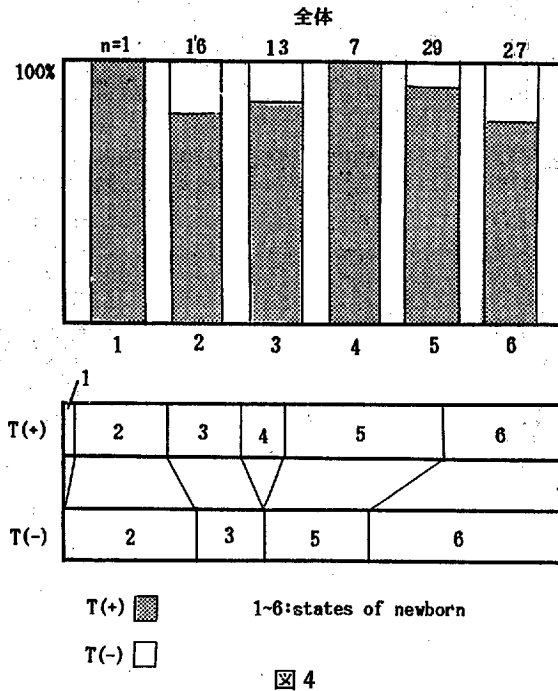
図1

図2

新生児の状態とTouching



新生児の状態とTouching



同胞数とタッチング

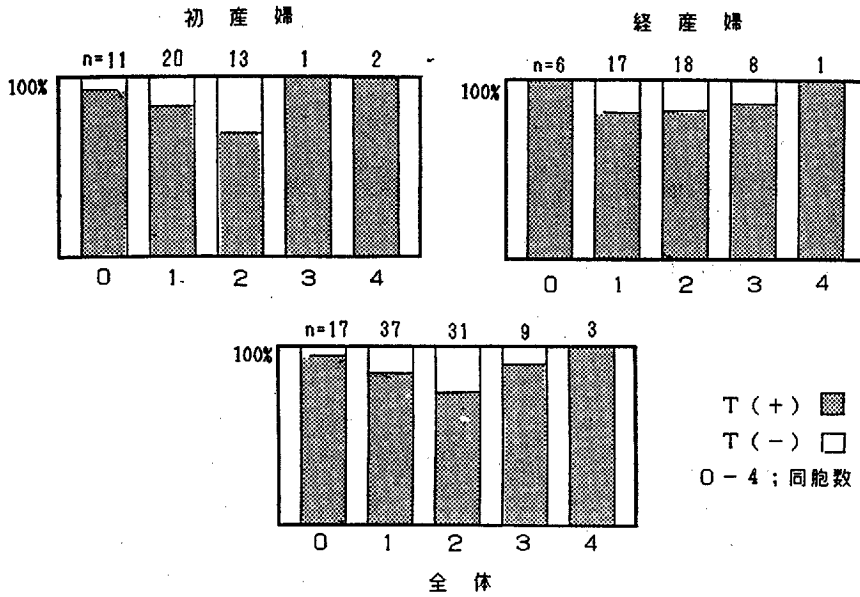


図 5

クレッチマーの分類とTouching

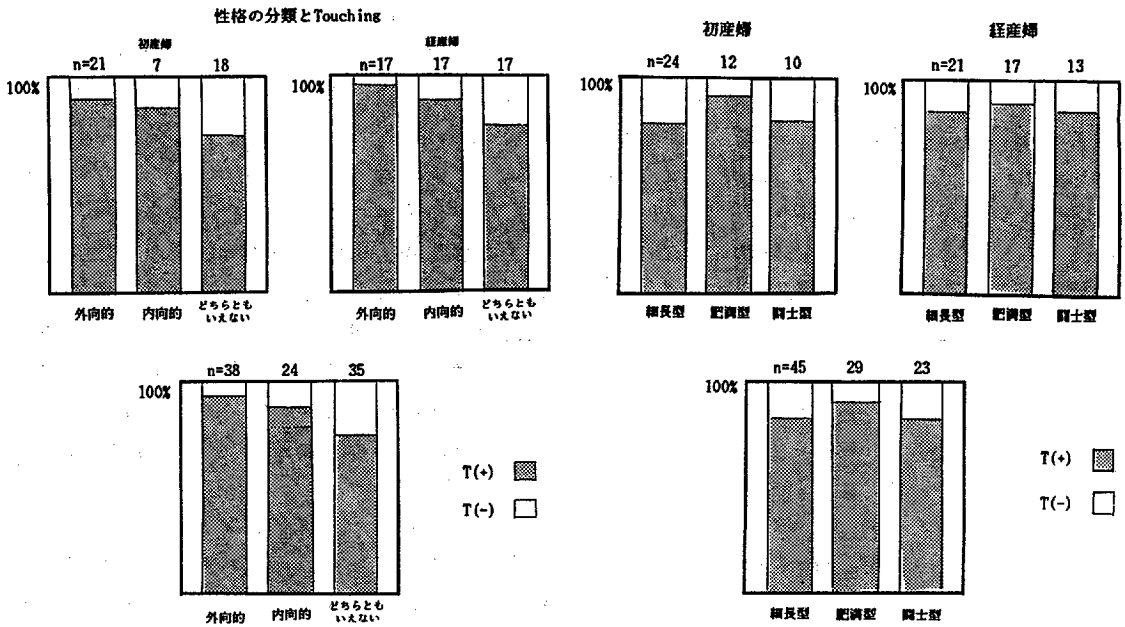
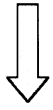


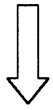
図 6

図 7



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1 はじめに

これまでの調査において、分娩直後の母親とその児の初回対面時に、自発的に接触を求める母親群と、接触を求めない母親群の社会的背景及び生育歴について調査を行った。その結果、計画的に妊娠した婦人、自分の育った栄養方法についての情報をもっていた婦人、同胞数の少い婦人に、Touching 行動をおこす母親が多いという結果が得られた。

今回は、より関連因子が強いと思われる項目の継続調査と、新たに Baby の state、母親の気質因子との関連性について、調査を行ったのでここに報告する。

調査項目は、1 妊娠の計画性 2 妊娠中の乳房の手当 3 面会時の新生児の state 4 同胞数 5 自己判定による性格分類 6 体格分類の 6 項目とした。(表 1)